

# 教員用

## すいがい まも 水害からいのちを守るために

### みやがわへん (宮川編)



- ・本書では授業のポイントを記載しています。
- ・授業の進め方は、「学習指導・発問計画」の2・3ページを予めご確認ください。
- ・取り扱うコマ数によって、使用しなくてよいページがございます。各ページ上部に、対象時限を記載しておりますのでご確認ください。  
例) 4-1 : 4コマ中の1コマ目で扱うページ  
3-1 : 3コマ中の1コマ目で扱うページ  
2-1 : 2コマ中の1コマ目で扱うページ

1	わたしたちの宮川 <sup>みやがわ</sup> .....	1			
	(1) 宮川の特ちょう <sup>みやがわ とく</sup> .....	1	1	1	1
	(2) 地形の特ちょう <sup>ちけい とく</sup> .....	3	1	1	1
	(3) 川の歴史 <sup>かわ れきし</sup> .....	5	1		
2	水害時 <sup>すいがいじ</sup> におこる危険 <sup>きけん</sup> .....	7			
	(1) 伊勢湾台風 <sup>いせわんたいふう</sup> .....	8	2		
	(2) 水害時 <sup>すいがいじ</sup> におこる危険 <sup>きけん</sup> .....	11	2	1	1
3	水害時 <sup>すいがいじ</sup> にわたしたちがとるべき行動 <sup>こうどう</sup> .....	20			
	(1) 水害 <sup>すいがい</sup> により身に危険 <sup>み きけん</sup> があるとき .....	20	3	2	2
	(2) 知 <sup>し</sup> っておくべきこと .....	23	3	2	2
4	みんなでとりくむ水害 <sup>すいがい</sup> へのそなえ .....	27			
	(1) 水害 <sup>すいがい</sup> で困 <sup>こま</sup> らない工夫 <sup>くふう</sup> .....	27	4	3	
	(2) 地域 <sup>ちいき</sup> の人 <sup>ひと</sup> 、家族 <sup>かぞく</sup> との助け合 <sup>たす あ</sup> い .....	30	4	3	
5	さいごに .....	32	4	3	2

わたしたちと<sup>まな</sup>いっしょに学んでいきましょう。



先生



しょうた



りか

このコーナーで  
児童に考えさせながら授業を進めてください

○ <sup>ほん みかた</sup>この本の見方



そのページで<sup>まな</sup>学ぶ<sup>ことば</sup>言葉の<sup>いみ</sup>意味を<sup>せつめい</sup>説明しています。

考えてみよう

みんなで<sup>かんが</sup>考えてみましょう。

もっと知ろう

<sup>じゅぎょう</sup>授業で<sup>まな</sup>学ぶ<sup>かんけい</sup>ことに関係することを<sup>と</sup>取り<sup>あ</sup>上げて  
います。<sup>じかん</sup>時間があるときに<sup>よ</sup>読んでみましょう。

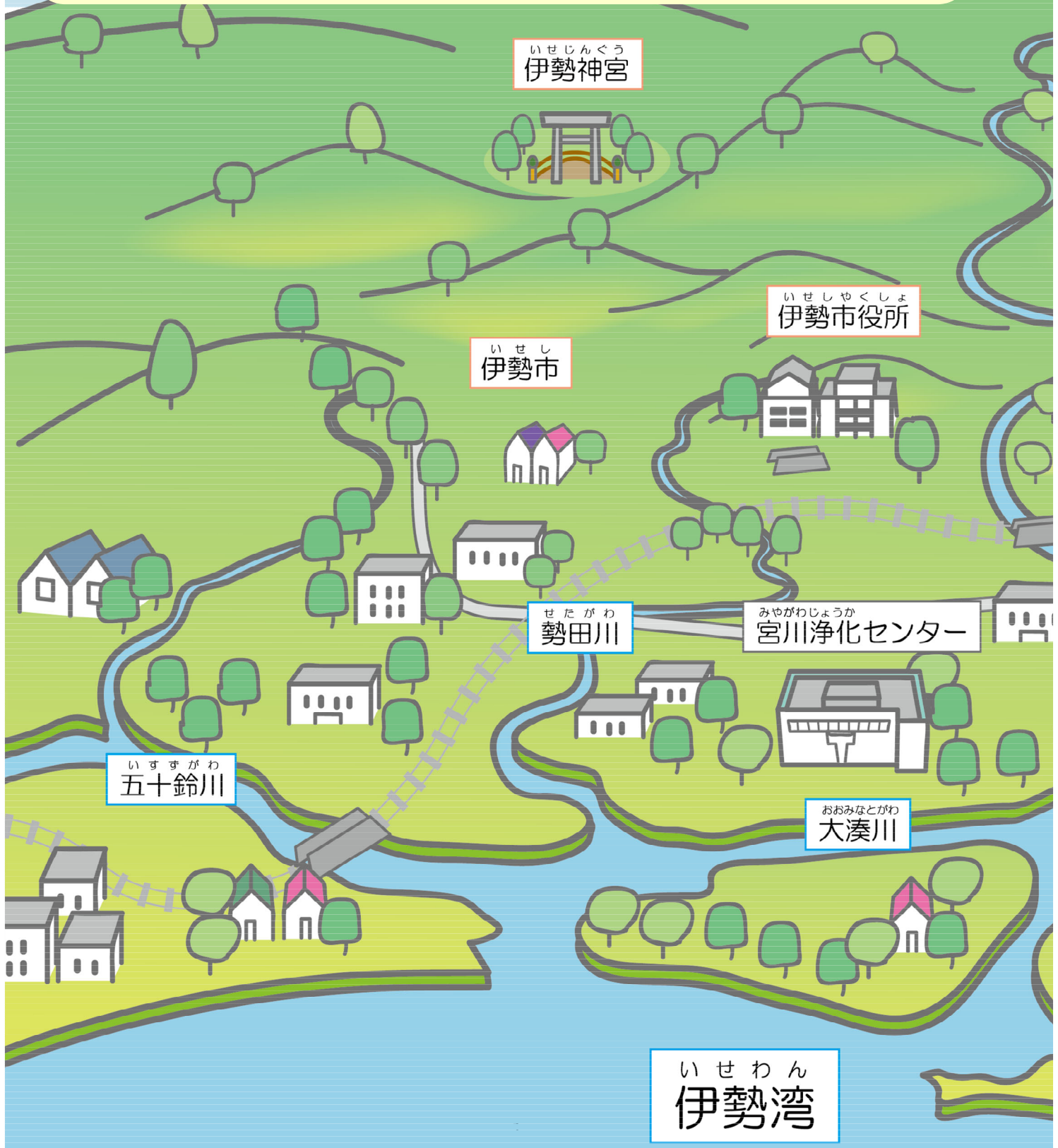
みやがわ とく  
(1) 宮川の特ちょう

考えてみよう

自分たちのまちに流れる川のことを考える。  
「川を利用している」ことを想像させる。

みなさんは川に遊びに行ったことはありますか。

川はどのようなことに利用されているでしょうか。





ひのでがたけ  
日出ヶ岳

みやがわ  
宮川ダム

みせたに  
三瀬谷ダム

たまきちょう  
玉城町

たまきちょうやくば  
玉城町役場

すいでん はたけ  
水田・畑

ジェイアールさんぐうせん  
JR 参宮線

ときだがわ  
外城田川

みやがわ  
宮川

こくどう  
国道 23 号

みやがわ みえけん ならけん さかい ひで がたけ  
宮川は、三重県と奈良県の境にある日出ヶ岳から

なが いせへいや で かこう ちか おおみなとがわ  
流れはじめ、伊勢平野に出て、河口の近くで大湊川

いせわん なが  
とわかれて、伊勢湾に流れこみます。

言葉をすべて覚える必要はありません。  
山から海へと流れていくことを理解する。

## (2) <sup>ちけい とく</sup>地形の特ちょう

<sup>みやがわ</sup>宮川は、<sup>ちけい</sup>地形によってさまざまな<sup>すがた</sup>姿をしています。

<sup>い</sup>生きものにとっての<sup>たいせつ</sup>大切なすみかであるほか、<sup>ひと あつ</sup>人が<sup>ばしょ</sup>集まる場所として<sup>りよう</sup>利用されています。



<sup>おおすぎたに</sup>大杉谷



<sup>みず なが</sup>水が<sup>うご</sup>流れずに動かないところ

<sup>さかな</sup>(魚や<sup>ちゅう</sup>こん虫のすみか)



<sup>すいせいせいぶつ</sup>水生生物の<sup>ちょうさ</sup>調査



<sup>かせんじきこうえん</sup>河川敷公園

多様な流れのおかげで、生きもののすみかや人々の河川利用があること学ぶ。  
川の「良い面」を伝える。

※以降で水害による被害を伝えます。

川に対して「怖い」印象が残ってしまわないように、川の「良い面」を  
本ページで必ず伝えてください。



みやがわ  
宮川はわたしたちの生活や生き物に豊かな恵みをあ  
たえているね。わたしたちの学校や家の近くでは、ど  
のような景色がみられるかな。



はなびたいかい いせじんぐう  
花火大会（伊勢神宮）



みやがわ さくらなみき  
宮川の桜並木



みやがわ  
宮川ダム



そうすいじょう  
送水場



みやがわ  
宮川ダムでは、水みずの力ちからで電気でんきをつくっているよ。  
みやがわ  
宮川ながに流れる水みずは、農業用水のうぎょうようすいや飲み水のみずとして利用りようされているよ。

かわ れきし  
(3) 川の歴史

<sup>みやがわ</sup> 宮川は、<sup>とようけだいじんぐう</sup> 豊受大神宮（<sup>いせじんぐうげくう</sup> 伊勢神宮外宮）の <sup>みそぎかわ</sup> 禊川であったことから、昔 <sup>とよみやがわ</sup> は豊宮川といわれ、「豊」の字を <sup>じ</sup> 省 <sup>しょうりやく</sup> 略 <sup>みやがわ</sup> して宮川という名前がついたとされています。古くから <sup>いせじんぐう</sup> 伊勢神宮と <sup>ふか</sup> 深い <sup>かか</sup> 関わりをもち、<sup>いせじんぐう</sup> 伊勢神宮とともに <sup>はってん</sup> 発展してきました。

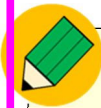


<sup>しきねんせんぐう</sup> 式年遷宮の <sup>かわび</sup> 川曳き



<sup>かわ</sup> 川の <sup>えき</sup> 駅「<sup>かわさき</sup> 河崎」（<sup>せたがわ</sup> 勢田川）

<sup>すいうん</sup> かつては水運を利用して、<sup>さんばいきやく</sup> 参拝客のための <sup>わた</sup> 渡し <sup>おこな</sup> が行われました。また、<sup>いせじんぐう</sup> 伊勢神宮で使われる <sup>つか</sup> 木材 <sup>もくざい</sup> などを <sup>はこ</sup> 運ぶ <sup>しごと</sup> 仕事や <sup>ふね</sup> 船をつくる <sup>しごと</sup> 仕事なども <sup>さか</sup> 栄え、<sup>いま</sup> 今 <sup>おもかげ</sup> でもその <sup>のこ</sup> 面影が残されています。



<sup>すいうん</sup> 水運… <sup>かわ</sup> 川を利用して、<sup>ふね</sup> 船で <sup>ひと</sup> 人や <sup>もの</sup> ものを <sup>はこ</sup> 運ぶこと。

川が伊勢神宮や人々の暮らしに関わってきたことを知る。



<sup>みやがわ</sup> 宮川は、古くから <sup>ふる</sup> 人や <sup>ひと</sup> 物を <sup>もの</sup> 運ぶために <sup>はこ</sup> 利用されて <sup>りよう</sup> いたんだね。大雨のときには、<sup>おおあめ</sup> 堤防が <sup>ていぼう</sup> わたしたち <sup>いのち</sup> の <sup>せいかつ</sup> 命や <sup>まも</sup> 生活を守っているよ。



川は、豊かな恵みをわたしたちに与える一方で、氾濫を繰り返してきたことを学ぶ。

みやがわ ふる あは がわ し  
宮川は、古くから暴れ川として知られ、

かりゅうぶ こうだい ちたい  
下流部には広大なデルタ地帯がつくられま

した。ひとびと みやがわ しぜん う ゆた  
した。人々は宮川の自然のめぐみを受け、豊

かな すいでん みやがわつつみ わじゅう  
かな水田をつくるとともに、宮川堤や輪中

といわれる 堤防をつくり、大雨から人命や

かおく すいでん まも  
家屋、水田などを守ってきました。

みやがわつつみ つ で つつみ ねん  
宮川堤には、4本の突き出た堤が300年

もまえにつくられ、いまもほぼそのままの形で

のこ 残されています。つき出た堤は、洪水を本堤

からお とお ほんてい やくわり は  
から遠ざけ、本堤を守る役割を果たしています。



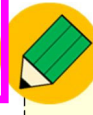
ちたい かこう  
デルタ地帯…河口で

かわ えだわ ぶぶん  
川が枝分かれした部分。

なが みず はこ  
流れる水のはたらきで運

ばれた土が河口近くにた

まることでできている。

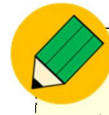


わじゅう しゅうらく すいがい  
輪中…集落を水害

から守るために、集落の

まわ かこ ていぼう  
周りを囲んだ堤防のこ

と。



ほんてい つ で ていぼう  
本堤…突き出た堤防

たい に対して、主要な堤防の

こと。



ぼうてい  
棒堤



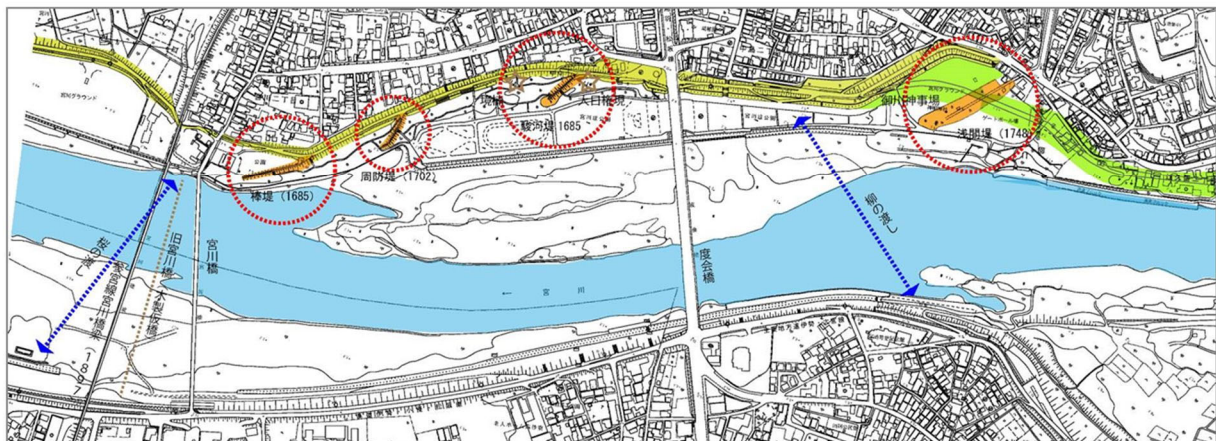
すおうてい  
周防堤



するがてい  
駿河堤



せんげんてい (まごえもんてい)  
浅間堤 (孫右衛門堤)





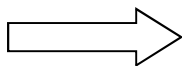
大雨が降ると堤防から水があふれ、命の危険がある。  
8ページ以降の導入として、雨の降る前と降った後の様子を紹介。

みやがわ おおあめ かわ みず  
宮川では、大雨のときに川から水があふれないように  
ていぼう まな  
堤防がつくられたと学びました。

ていぼう みず  
堤防があるところからは、水はあふれてこないのかな？

みやがわ ようす  
<宮川の様子>

あめ ふ まえ  
雨の降る前



あめ ふ あと  
雨の降った後

2011. 08. 31 09. 23

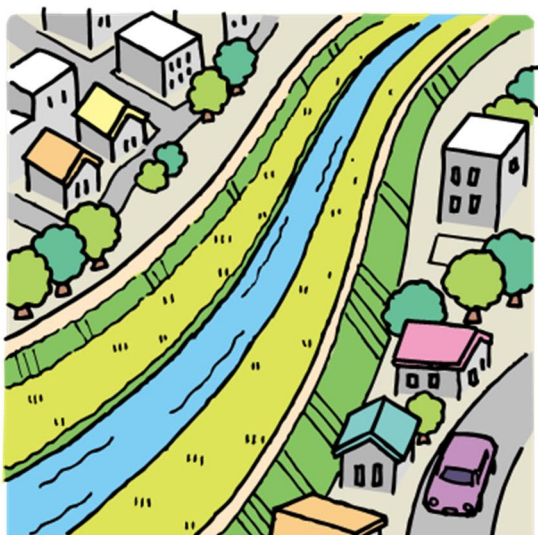


宮 4.4 左 宮川大橋

2011. 09. 04 13. 28



宮 4.4 左 宮川大橋



よ ぎもん  
良い疑問ですね。

おおあめ みやがわ じょうりゅう なが たいりょう  
大雨がふると宮川の上流から流れてきた大量の  
みず ていぼう  
水が、堤防からあふれてしまうことがあります。

みやがわ おお すいがい さいきん  
それでは、宮川でおこった大きな水害や、最近の  
ひがい  
被害をみてみましょう。



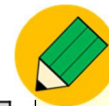
# いせわんたいふう (1) 伊勢湾台風

しょうわ ねん ねん がつ にち はっせい いせわんたいふう たいふうだい ごう  
昭和34年（1959年）9月26日に発生した伊勢湾台風（台風第15号）

ちゅうしんきあつ おおがたいふう どうかいちほう おお  
は、中心気圧が929.6ヘクトパスカルの大型台風で、東海地方に大き  
な被害をもたらしました。

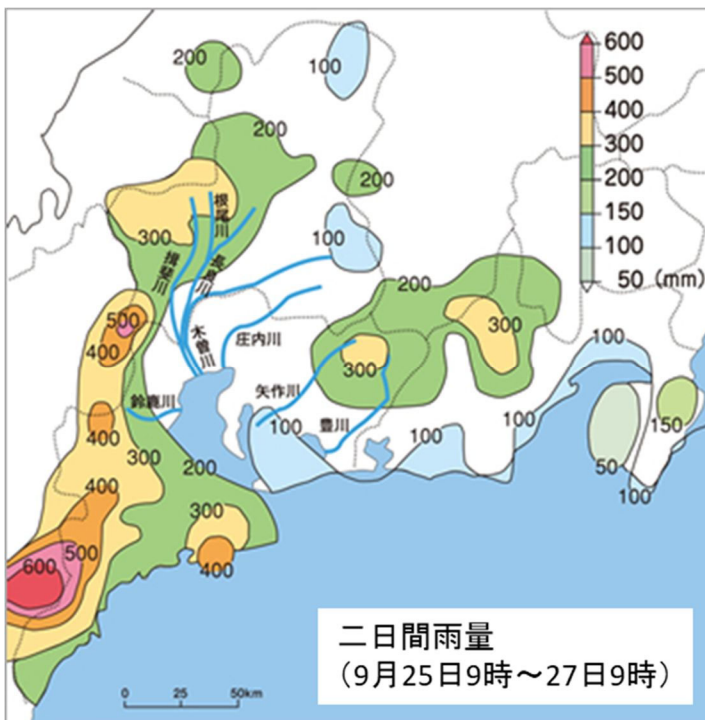
## ちゅうしんきあつ ひく たいふう ねん ねん ■ 中心気圧が低い台風（1951年～2019年）

じゅんい 順位	じょうりくじ きあつ 上陸時の気圧 (ヘクトパスカル)	じょうりくにちじ 上陸日時
1	925	1961年9月16日9時すぎ
2	929	1959年9月26日18時ごろ
3	930	1993年9月3日16時前

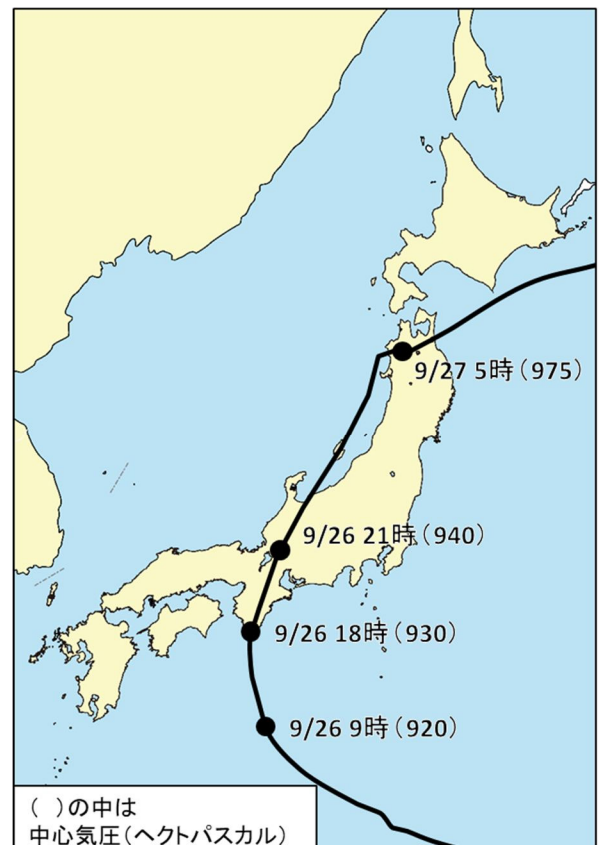


ヘクトパスカル…

たいき あつりよく  
大気（たいき）の圧力（あつりよく）をあらわす  
たんい すうじ ひく  
単位（たんい）です。この数字（すうじ）が低い  
ほど、台風（たいふう）の強さ（つよ）は強（つよ）く  
なります。伊勢湾台風（いせわんたいふう）は、観測  
（かんそく）されている中で、2番目（にばんめ）に  
ちゅうしんきあつ ひく たいふう  
中心気圧（ちゅうしんきあつ）が低い台風（ひく たいふう）です。



ふつかかん うりょう  
二日間でふった雨量



たいふう とお みち  
台風の通り道

みやがわりゅういき しょうわ ねん ねん  
 宮川流域では、昭和28年（1953年）に  
 たかしおひがい う たかしおていぼう  
 高潮被害を受けて高潮堤防がつくられました  
 い せ わんたいふう い せ し ない  
 が、伊勢湾台風でこわれてしまい、伊勢市内  
 やく まんにん ひがい う  
 で約9万人が被害を受けました。  
 しゃしん ふね じゆう いどう  
 写真からは、船などがないと自由に移動が  
 ようす い せ わんたいふう  
 できない様子がみてとれます。伊勢湾台風  
 ひがい せいかつ おお えいきょう あた  
 による被害は、生活に大きな影響を与えまし  
 た。



やま だいち あまみず  
 山や大地にふった雨水  
 ひく なが かわ  
 は、低いほうへと流れ、川  
 なが  
 に流れこみます。このよう  
 あまみず かわ あつ はんい  
 に、雨水が川に集まる範囲  
 かわ りゅういき  
 をその川の「流域」といい  
 ます。  
 みやがわりゅういき  
 宮川流域とは、その  
 はんい あめ みやがわ  
 範囲にふった雨は宮川に  
 なが  
 流れこむという範囲をあ  
 らわします。

写真を中心に伊勢湾台風  
 による被害を知り、水害  
 で生活に影響を及ぼすこ  
 ともあることを学ぶ。

てつどう じょう なが  
 鉄道のレール上に流されて  
 きたものが散乱している様子  
 い せ し  
 (伊勢市)

ふね つか いどう  
 船を使わないと移動できない  
 ようす くもずがわ  
 様子 (雲出川)



# もっと知ろう

## おおあめ 大雨ってどんなとき？

たいふう ちか 台風が近づいているときに、テレビなどで「明日は猛烈な雨になるおそれがあります。外出はひかえましょう。」というアナウンスを聞いたことはありませんか。テレビなどでの雨の表し方は、下の表のとおりに決まっています。

また、「1時間雨量●mmの雨」とは、「1時間で●mmの深さで雨がたまること」を示します。50mmをこえると非常に危険です。

1時間雨量 (mm)	予報用語 (人のうけるイメージ)	人への影響	屋内	屋外	車に乗っていると
10~20	やや強い雨 (ザーザーとふる)	地面からはね返りで足元がぬれる 	雨の音で話し声がよく聞き取れない 	地面一面に水たまりができる 	
20~30	強い雨 (どしゃぶり)	かさをさしていてもぬれる 			ワイパーをはやく動かしても見づらい 
30~50	はげしい雨 (バケツをひっくりかえしたようにふる)		寝ている人のおよそ半数が雨に気づく 	道路が川のようになる 	スピードをあげているとブレーキがかかりにくい 
50~80	ひじょうにはげしい雨 (滝のようにふる)	かさがまったく役に立たなくなる 		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる 	車の運転は危険 
80~	もうれつな雨 (息苦しさ、恐怖を感じる)				

(気象庁提供)

## (2) すいがいじ きけん 水害時におこる危険

にほんぜんこく すいがい 日本全国では、毎年のように水害がおこっています。水害がおこると、下の写真のようにさまざまな被害を受けます。

すいがい じょうきょう 水害がおこるとどのような状況になるのかな。  
した しゃしん み そうぞう 下の写真を見ながら想像してみましょう。

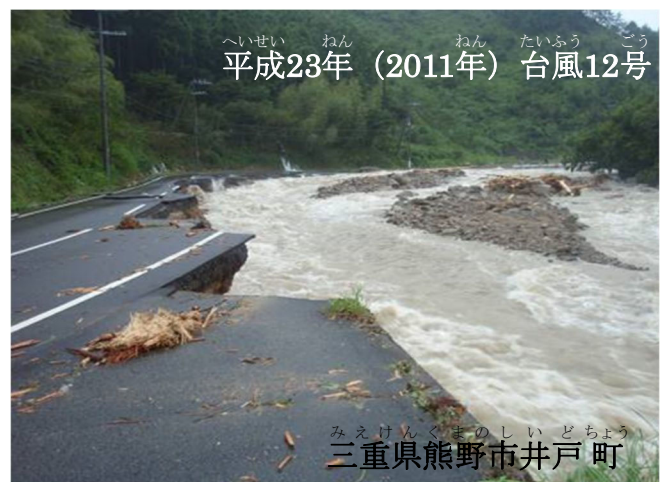


水害時に起こる危険を考えることで、その後の授業において「わたしたちがとるべき行動」を考える際の土台をつくる。

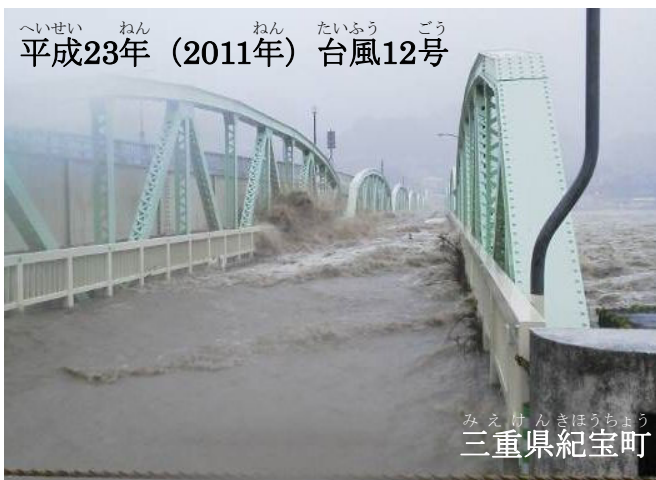


川に流れる濁った水が押し寄せる。

ていぼう 堤防がこわれる



どうろ 道路がこわれる



かわ みず 川から水があふれる



いえ 家がこわれる

堤防は壊れていないが、堤防を越えて水があふれることもある。

川沿いでは、流れる水のはたらき（侵食）で、家の土台が削られ家屋倒壊の恐れがある。

## 考えてみよう

次のページも見てね

写真のような被害を受けると、どのような危険があるのでしょうか。

こんなときはどうなるかな？



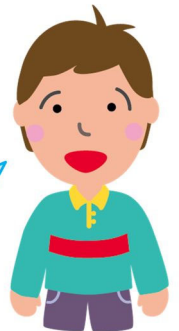
- ・家からひなん場所へ歩いて行きたい。
- ・近所に住むおばあちゃんといっしょにひなんしたい。
- ・車に乗って買い物へ行きたい。

水害が起こった時にとるべき行動を考えることができるように、「水害がおこるとわたしたちはどのような点で困るのか」を想像できるようにする。



山がくずれて、道路を通れない

台風のときにテレビで被害のようすを見たことがあるよ。



山がくずれて、家がこわれる

もしも家の中にいたら怪我をする。最悪の場合は死に至る。

わたしたちの身の回りでは、どのような被害を受けたことがあるのかな。



<sup>みやがわりゅういき</sup> 宮川流域でも、<sup>しょうわ ねん</sup> 昭和49年（1974年）の<sup>ねん</sup> 台風により、<sup>たいふう</sup> まちが<sup>しんすい</sup> 浸水しました。  
<sup>きんねん</sup> 近年は、<sup>へいせい ねん</sup> 平成16年（2004年）や<sup>ねん</sup> 平成29年（2017年）などに<sup>しんすい</sup> 浸水  
<sup>ひがい</sup> 被害を受けています。



大人のひざ下まで水につかっている。濁った水で足元がよく見えず、怪我をする恐れがある。

<sup>しょうわ ねん</sup> 昭和49年（1974年）<sup>ねん</sup> 台風第8号 <sup>い せ し やく し ょ ま え</sup> （伊勢市役所前）



<sup>くるま みず</sup> 車が水につかっているね。  
ふだんはどのようなところかな。

どのような<sup>きけん</sup> 危険があるのかな？  
みんなで<sup>かんが</sup> 考えてみましょう。







ようす  
ふだんの様子



おおあめ ふ あと  
大雨が降った後

車での移動が困難である。

道路のわきにある溝が見えなくなっている。  
足をとられる恐れがある。

へいせい ねん (2004年)  
平成16年

たいふう ごう い せ し つ じ く る  
台風21号 (伊勢市辻久留)



へいせい ねん ねん  
平成16年 (2004年)

たいふう ごう いせしつじくる  
台風21号 (伊勢市辻久留)



ようす  
ふだんの様子



おおあめ ふ あと  
大雨が降った後

観光地にも浸水被害があった。一面水没しており、足元が見えないため、夜中の移動は非常に危険である。

へいせい ねん ねん  
平成29年 (2017年)

たいふう ごう い せ じんぐうげくうさんどう  
台風21号 (伊勢神宮外宮参道)



ようす  
ふだんの様子



おおあめ ふ あと  
大雨が降った後

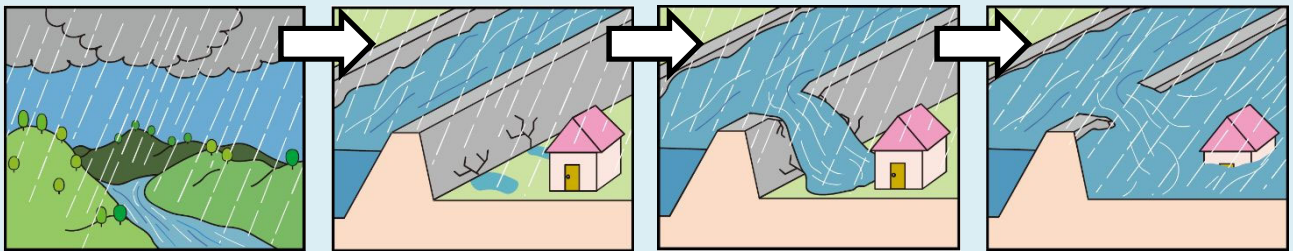
どこに川があるのかわからないほど、水があふれている。  
道路と畑・川との境が見えず、足をとられるおそれがある。

## もっと知ろう

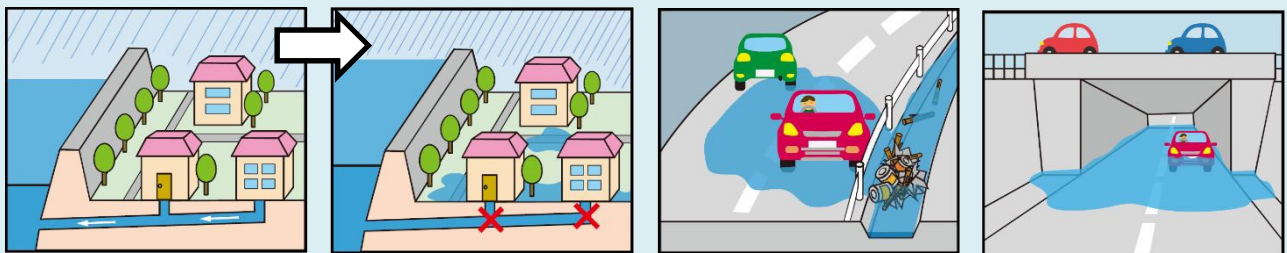
すいがい  
水害ってどうやっておこるの？



かわ なが みず りょう おお  
川を流れる水の量が多くなると、堤防から水が  
あふれてきたり、堤防がこわれてまちに水が流れて  
くるね。(外水はんらん)



ふだんは、街中にふった雨は、排水溝や下水道を  
とお かわ はいすい  
通って川に排水されます。しかし、大雨がふると川  
のみず りょう  
の水の量がふえ、街中の水が排水できなくなって  
あふれてしまうことがあります。



かわ かんけい ばしょ はいすいこう  
川とは関係ない場所でも、排水溝にゴミがたまっ  
てしまい道路に水があふれることがあるね。鉄道の  
こうかした どうろ みず  
高架下などの道路が低くなっているところに雨水  
がたまることもあるよ。(内水はんらん)

## もっと知ろう

### 川の水位の上がり方

雨のふり方や雨のふる場所によって、川の水位の上がり方はさまざまです。ゆっくり川の水位が上がることもあれば、集中豪雨によって水位が急に上がることもあります。

平成20年（2008年）7月、兵庫県神戸市を流れる都賀川では、急な集中豪雨が発生し、10分間で1.34メートルも水位が上がりました。水遊びなどをしていた16人が流され、そのうち5人が犠牲となりました。



10分間  
1.34m ↑



川の水が急にふえることもあるんだね。

雨がふると、いつもより川を流れる水の量がふえたり、流れがはやくなったりするから、川では遊ばないようにしましょう。



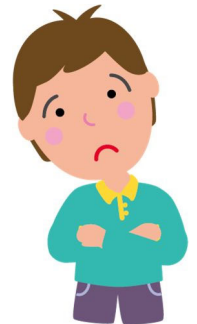
# (1) 水害により身に危険があるとき

わたしたちのまちでも、大雨によって身近な場所が水につかったり、山がくずれたりするかもしれません。万が一のときにそなえて、わたしたちの身に危険があるときにすべきことを考えてみましょう。



水害がおこると、さまざまな危険があることを学びましたね。

わたしたちはどのように行動すればいいのかな。



## 考えてみよう

次のページを見てね

雨が降ってきたときに、まわりの状況はどのように変化するでしょうか。そして、わたしたちにどのような影響があるでしょうか。わたしたちがとるべき行動をを考えてみましょう。

こんなときはどうなるかな？



- ・自分の家にいるときに雨が強くなってきました。
- ・ひな人をしようとしたときには、あたりが水びたしになっていました。

雨が強くなっていくときを想像しながら意見を挙げていくことで、そのあとに考える「わたしたちの行動」について考えやすくする。

<p>あめ 雨のようす</p>	<p>かわ じょうきょう 川の状況</p>	<p>まわりの状況 じょうきょう</p>
	 <p>ふだんのようす</p>	<p>ふだんのようす</p>
 <p>みず 水たまりができる</p>	 <p>ふだんより水の量が ふえている</p>	<p>あめ つよ 雨が強くなる</p>
 <p>かさ 傘をさしてもぬれる</p>	 <p>水面が堤防に近づいている</p>	 <p>どうろ 道路など一部浸水する</p>
 <p>みず 水しぶきであたり一面が しろ 白っぽくなる</p>	 <p>みず 水があふれそう または、あふれる</p>	 <p>ていぼう 堤防から水があふれだす</p>
<p>みず 水しぶきであたり一面が しろ 白っぽくなる</p>	 <p>ていぼう 堤防がこわれる</p>	 <p>ていぼう 堤防がこわれる</p>

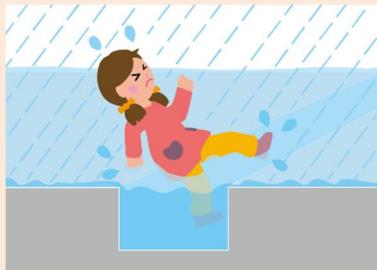


えいきょう  
あなたへの影響

こうどう  
とるべき行動



そと で 外に出かけるのが危なくなる



すいろ み マンホール、水路などが見えない



おぼれたり

なが 流されたりする



ドアが開かず

そと で 外に出られない



しんすい みうご と まちが浸水して身動きが取れない



じゆんび ひなんの準備をする



に 逃げられなくなる前に

まえ あんぜん ばしょへ 安全な場所へ

ひなんする

なが 流されないように

たか あんぜん 高くして安全な

ばしょ いどう 場所へ移動する



避難が遅れた場合、または、避難した場所に水が押し寄せてきた場合は、高くして安全な場所へ移動する。

(2) 知っておくべきこと



わたしたちの身の回りが危険な状況になる前に、早めに安全な場所へひなんすることが大切であることを学びました。

水害がおこったときに、わたしたちの身の回りはどのような状況になるのかな。



自然災害が発生したときに、どこでどのような災害がおこるかを予測して、地図上に危険な地域やひなん場所・ひなん経路などを示したものを「ハザードマップ」といいます。自然災害は、地震、津波、土砂災害、水害などさまざまですが、それぞれの災害についてハザードマップがつくられています。



ハザードマップを見てわたしたちの家や学校の周りの状況を確認してみよう。



## 考えてみよう

ハザードマップを見ながら、身の回りの危険を確認しましょう。

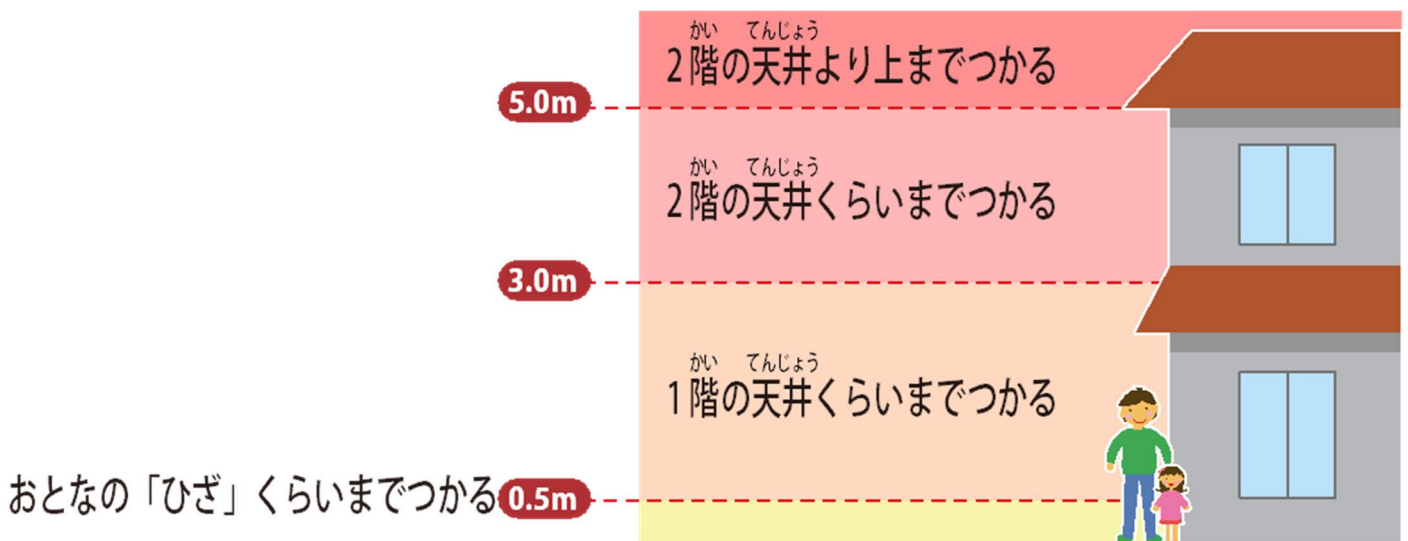
班ごとに机を一つにして、大判のハザードマップを見ながら  
下記の手順に沿って、身の回りの危険を確認する。  
★授業用プリントあり ★宿題用ワークシートあり

### 【手順】

① 学校（自宅）の位置に印を入れましょう。

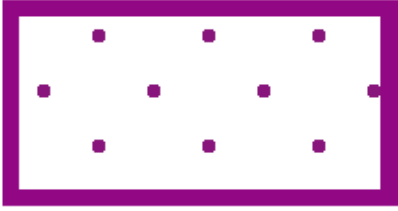



② 学校（自宅）は、水につかりますか？

③ 水につかる場合、どのくらいの高さまでつかりますか？



どのくらいの高さまで水につかるおそれがあるのかは、地図にぬられた色から読みとることができるよ。

④ 学校（自宅）は、建物がたおれるおそれがある地域に入っていますか？

<p>説明 <small>せつめい</small></p>	<p>かわ みず 川からあふれた水のいきおいで、 たてももの なが 建物が流されるおそれがある場所</p>	<p>たてももの どだいぶぶん 建物の土台部分がけずられて、 たてももの 建物がたおれるおそれがある場所</p>
<p>しるし</p>		
<p>例 <small>れい</small></p>	 <p>平成30年（2018年）7月豪雨 愛媛県大洲市東天洲</p>	 <p>平成23年（2011年）台風12号 三重県熊野市井戸町</p>

⑤ 学校（自宅）は安全ですか？

⑥ ひなんのため、学校（自宅）の周りの安全な場所をさがしてみよう。





- ・ 近くのひなん場所はどこにあるかな？
- ・ ひなん場所のほかに、高く安全な場所（水につからない場所）はあるかな？

指定ひなん場所のマーク

<伊勢市防災マップの場合>

<他の地域で使われるマーク>

指定避難所安全度ランク

			
危険	→		安全





きょう 今日かくにんしたことは、おうちの<sup>ひと</sup>人にも  
おし 教えてあげてね。

早めの避難の重要性を、授業のまとめとして伝える。

きょう 今日かくにんした「水につかる<sup>ちいき</sup>地域」は、「雨があふったときに<sup>かなら</sup>必ず<sup>みず</sup>水につかる<sup>ばしょ</sup>場所」というわけではありません。しかし、「このあたりまで<sup>みず</sup>水につかるかもしれない」と<sup>かんが</sup>考えて、<sup>みず</sup>水につかって<sup>うご</sup>動くことができなくなる前に、<sup>まえ</sup>早めに<sup>はや</sup>安全な<sup>あんぜん</sup>場所へ<sup>ばしょ</sup>ひなんすることが<sup>たいせつ</sup>大切です。

## もっと知ろう

### ひなんについての<sup>じょうほう</sup>情報

さいがい 災害がおこったとき、<sup>かくしちょうそんちょう</sup>各市町村長は<sup>じゅうみん</sup>住民にひなんを呼びかける  
「ひなん<sup>じょうほう</sup>情報」を<sup>はつれい</sup>発令します。意味を知っておき、ひなんをする<sup>めやす</sup>目安  
としましょう。

#### けいかい 警戒レベル3

こうれいしゃとう  
高齢者等ひなん

ひなんをする<sup>じゅんび</sup>準備をしましょう。<sup>こうれいしゃ</sup>高齢者の  
方などひなんに<sup>じかん</sup>時間がかかる人は、ひなん  
を<sup>かいし</sup>開始しましょう。

#### けいかい 警戒レベル4

しじ  
ひなん指示

すぐに、<sup>ぜんいん</sup>全員、ひなんを<sup>かいし</sup>開始しましょう。  
<sup>いどう</sup>移動が<sup>きけん</sup>危険な場合は、<sup>たか</sup>高い<sup>ばしょ</sup>場所にひなんし  
ましょう。

#### けいかい 警戒レベル5

きんきゅうあんぜんかくほ  
緊急安全確保

さいがい 災害が発生しています。<sup>いのち</sup>じぶんの<sup>まも</sup>命を守る  
ための<sup>こうどう</sup>行動をしましょう。

(1) 水害で困らない工夫

みやがわ 水害による被害をおさえるために、さまざまにとりくみが  
おこな  
行われています。



まいとし 台風は起こっているのに、みやがわの周りでは大きな被害は出ていないね。

考えてみよう

水害で困らないため、川は普段から管理されていることを知る。取り組みは1つでは無く、いろいろな取り組みがあることを知る。

水害による被害をおさえるために、どのようなとりくみが行われているでしょうか。



考えるポイント

- 川から水があふれないようにするには？
- 大雨がふったとき、身の回りでどのようなことが行われているかな？



みやがわから水があふれないように、土などを盛りあげて、堤防をつくっています。



かわ そこ じょうりゅう なが  
川の底には、上流から流  
れてきた砂や泥がたまって  
いきます。そのため、川の底  
をほって、流れる水の量を  
多くしています。

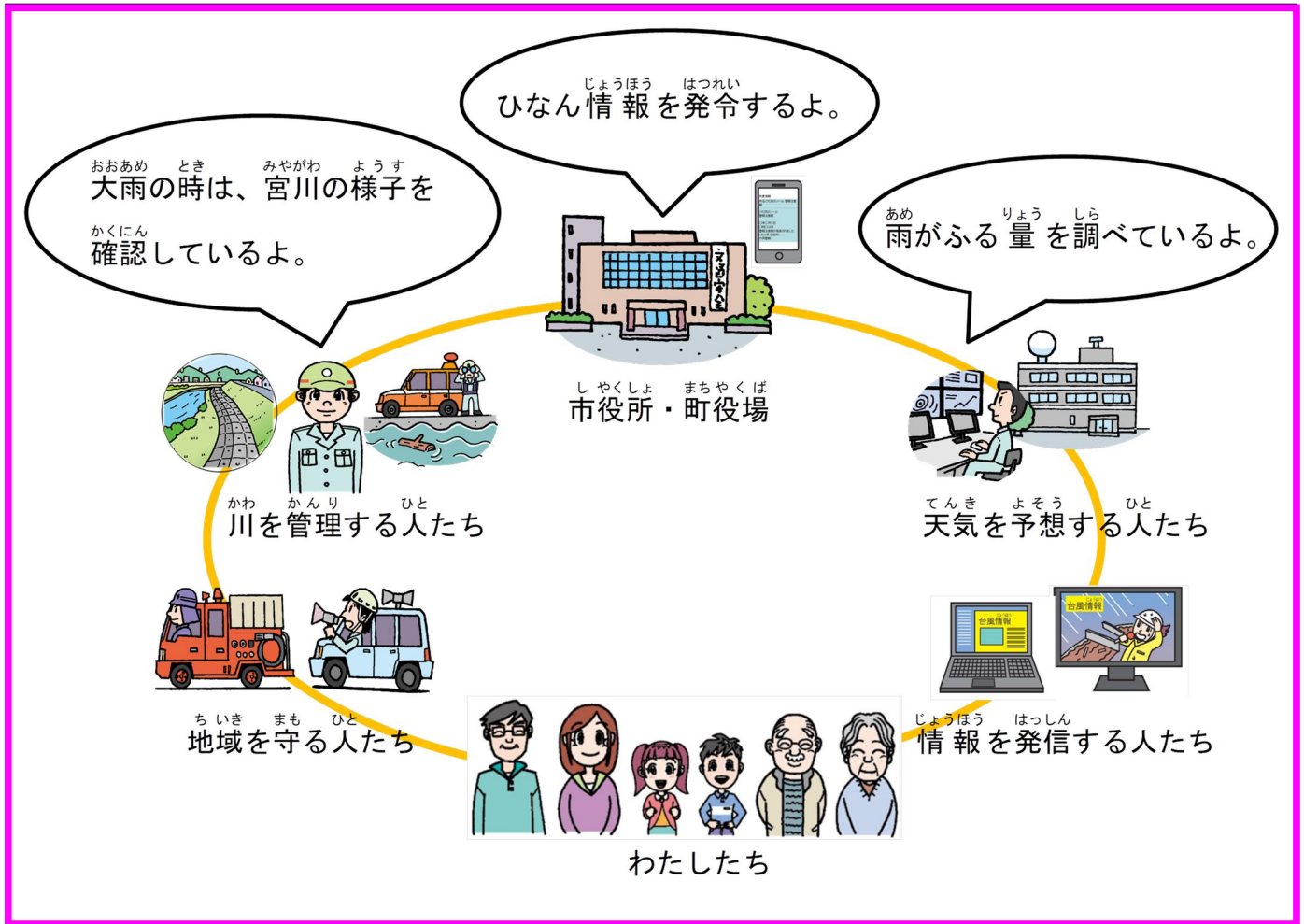
じょうりゅう みず  
上流では、ダムに水を  
ためて、たくさんの水が川  
に流れないように調節し  
ています。



ていきてき ていぼう  
また、定期的に堤防や  
河川の施設が安全か点検を  
しています。万が一にそな  
えて、水防訓練も行ってい  
ます。

このように、川はふだんから安全に管理されています。

また、大雨のときには、川を管理する人たち、天気を予想する人たち、ひなん情報を発令する市役所・町役場、さまざまな情報を発信する人たち、そして、わたしたち一人一人が関わりあっています。役割はさまざまですが、大雨による被害が少なくなるように、一人一人が「自分のいのちを守る」行動をとることが大切です。



水害で困らないため、わたしたちの周りで、  
いろんな人たちが関わりあっていることを学ぶ。  
たくさんの方が、災害にそなえるためには  
はたらいているんだね。



## (2) 地域の人、家族との助け合い

大雨のときは、天気のようにすやひなんの情報など、さまざまな情報がわたしたちのもとにとどきます。それらの情報や周りのようすを確認して、ひなんが必要なときは家族や地域の人たちと助け合ってひなんしましょう。もしも、家族と別々の場所にいるときに災害がおきたとしたら、まずは「自分のいのちを守る」行動をとりましょう。

もしものときにそなえて、持ち出し品やひなんをした後に集まる場所を家族で話し合っておきましょう。

もしもの時に備えて、家族と事前に決めておくべきことを学ぶ。



あらかじめ家族と決めておこう
<input type="checkbox"/> 持ち出し品
<input type="checkbox"/> ひなん先
<input type="checkbox"/> ひなんをした後に集まる場所 (家族が別々の場所にいるとき)
<input type="checkbox"/> ひなんをするときに注意する場所

高齢者の方や、幼い子どもは、一人で避難をすることが困難な災害弱者であることを学ぶ。また、そのような人が、身近な地域にいる場合は、避難の手助けが必要であることを学ぶ。



高齢者の方や幼い子どもなど、一人でひなんをすることがむずかしい人がいれば、周りの人といっしょにひなんの手助けをしましょう。

もっと知ろう

も だ ひん じゅんび  
持ち出し品の準備

ひなん所に準備されているものには、数に限りがあります。もしものときにそなえて、自ら準備しておく<sup>あんしん</sup>と安心です。両手の空くリュックサックに<sup>も だ ひん じゅんび</sup>持ち出し品を準備しておきましょう。



も だ ひん  
持ち出し品

携帯ラジオ

懐中電灯

電池

非常食

水

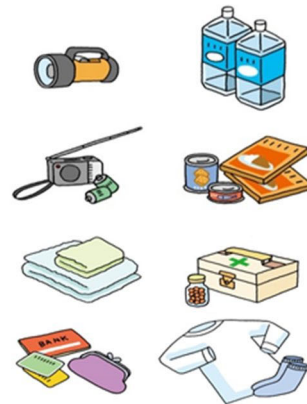
救急医薬品

雨具

現金・貴重品

衣服

ろうそく（マッチ、ライターなど）



もっと知ろう

ひなんするときに注意すること

さんこう  
参考：21 ページ

大雨によって、身の回りが危険な状態になることが予想される<sup>よそう</sup>ときは、早め<sup>はや</sup>に安全な場所<sup>ばしょ</sup>へひなんしましょう。

移動が危険な場合は、高く<sup>たか</sup>て安全な場所<sup>ばしょ</sup>にひなんしましょう。もしも水の中<sup>みず なか</sup>を移動する<sup>いどう</sup>場合<sup>ばあい</sup>があれば、棒<sup>ぼう</sup>で足元<sup>あしもと</sup>を確認<sup>かくにん</sup>しながら進<sup>すす</sup>みましょう。



この本では、<sup>ほん</sup>宮川のまわりの<sup>みやがわ</sup>水害<sup>すいがい</sup>について<sup>まな</sup>学びましたが、ひっこしをしたり、外に出かけたりして、<sup>ほか</sup>他の川の<sup>かわ</sup>近く<sup>ちか</sup>にいるときもあるでしょう。<sup>すいがい</sup>水害だけではなく、そのほかの<sup>しぜんさいがい</sup>自然災害がおこることもあります。そのようなときも、あせらずに<sup>まわ</sup>周りの人<sup>ひと</sup>と<sup>たす</sup>助け合<sup>あ</sup>って、「<sup>じぶん</sup>自分のいのち<sup>まも</sup>を守る<sup>こうどう</sup>」行動をとるようにしましょう。一人一人の<sup>ひとりひとり</sup>日ごろ<sup>ひ</sup>の<sup>こころ</sup>心<sup>がけ</sup>がけが「もしものとき<sup>みんなの</sup>の<sup>あんぜん</sup>安全」をつくりま

水害が起こったときに、「行動」することの大切さを最後にもう一度伝える。



ぼくたちのまちの<sup>すいがい</sup>水害<sup>まな</sup>について、いろいろなことを<sup>まな</sup>学んだね。

<sup>たいふう</sup>台風や<sup>おおあめ</sup>大雨のときは、<sup>こんかいまな</sup>今回<sup>まな</sup>学んだことを<sup>いかして</sup>、<sup>じぶん</sup>自分のいのち<sup>まも</sup>を守る<sup>こうどう</sup>行動<sup>おも</sup>ができる<sup>おも</sup>と思うわ。



将来、万が一、身の回りで水害が起こったとしても、今回学んだことを思い出して、焦らずに行動してほしいことを伝える。



<sup>かわ</sup>川は<sup>とき</sup>時に<sup>きけん</sup>危険な<sup>ばしょ</sup>場所にもなるけれど、<sup>ふだん</sup>ふだんは<sup>い</sup>生きものを<sup>かんさつ</sup>観察したり、<sup>みんな</sup>みんなで<sup>かわあそ</sup>川遊びをしたり、いろいろなことができる<sup>ばしょ</sup>場所です。<sup>おおあめ</sup>大雨がふった<sup>ちゅういてん</sup>ときの<sup>し</sup>注意点<sup>を知った</sup>うえで、<sup>しぜん</sup>自然と<sup>い</sup>ともに<sup>生きて</sup>いきましよう。

川に対して「恐怖」の感情が残らないように、1章の内容をおさらいしながら、川には良い所がたくさんあることを伝える。



# ワークシート

## 3 水害時にわたしたちがとるべき行動

### うら面にはりつける「とるべき行動」シート

○点線で切り取って使いましょう。必要なものを自由に使ってね。

宿題用ワークシート裏面には、下記のイラストまたは文章を切り取って貼り付けるよう児童に伝えて下さい。必要なものだけを使用してください。



安全な場所へひなんする  
(場所: )



ハザードマップを見て、  
家や学校の周りの  
状況を確認する



流されないように高く  
安全な場所へ移動する



持ち出し品を準備する



ひなん情報を確認する

ひなん先やひなんルート  
をあらためて確認する

おじいちゃん  
おばあちゃんに連絡する

ハザードマップを見ると  
自宅は安全であるため  
自宅で待機する

( ) に連絡する

ひなんを完了する



児童の自宅がどこにあるか、避難先や親戚等の家がどこにあるかによって避難行動パターンは異なります。上記に挙げた避難行動以外に必要な行動があれば、点線枠のみ用意した白紙シートを活用してください。

